

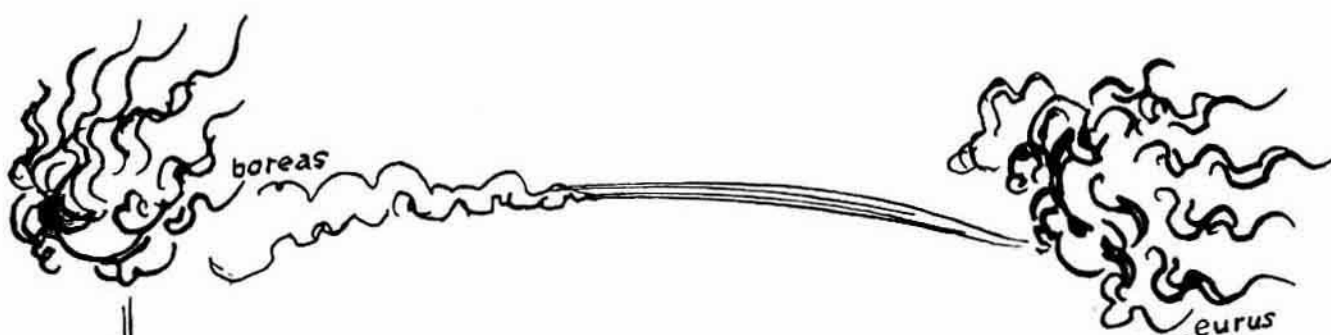
大野 晋著

日本語練習帳



岩波新書

596



boreas

eurus

大野 晋著

江苏工业学院图书馆
日本語練習帳

藏书章

岩波新書

596

zephyrus

notus



大野 晋

1919年東京に生まれる
1943年東京大学文学部国文学科卒業
専攻一 国語学
現在一 学習院大学名誉教授
著書一 『日本語をさかのぼる』
『日本語の文法を考える』
『日本語以前』
『日本語の起源 新版』(以上、岩波新書)
『日本書紀』(共編・校注、岩波文庫)
『岩波古語辞典』(共編)
『上代仮名遣の研究』
『仮名遣と上代語』
『文法と語彙』『日本語について』
『源氏物語』『係り結びの研究』(以上、岩波書店)
『一語の辞典 神』(三省堂) ほか

日本語練習帳

岩波新書(新赤版)596

1999年1月20日 第1刷発行
1999年5月6日 第12刷発行

著者 おおの すすむ
大野 晋

発行者 大塚信一

発行所 株式会社 岩波書店
〒101-8002 東京都千代田区一ツ橋2-5-5

電話 案内 03-5210-4000 営業部 03-5210-4111
新書編集部 03-5210-4054

印刷・精興社 カバー・半七印刷 製本・中永製本

© Susumu Ohno 1999
ISBN 4-00-430596-9

Printed in Japan

まえがき

私たちは新聞を読み、時には雑誌に目を通し、本を読みます。そして、もつと深く鋭く読めるようになりたい、いい文章が書けるようになりたいと、どこかで思っています。

どんな心構えをもって、どんなことに気をつければいいのか。よい日本語を書くと言われる人たちはどんなことをしてきたのか知りたい。そういう希望に対して、世に文章読本とか、作文技術とかいう本がたくさん書かれています。見るとそれぞれ立派な案内書です。大事なことが書いてある。中には具体的に細かい技法まで示すものもあります。

今までの本は、しかし、著者が大事と思うところを次々に独りで語ってくれるものです。私は学生や社会人のための「日本語の練習帳」という形を考えてみました。水泳ができるようになりたければ、水に入って実地にバタ足から始めます。文章についても初歩の人はまったくの手始めのことから練習することが必要です。ここにあげた問題について実際に考え、問いに答えを書いていくうちに、読み書きする上での考え方、あるいは技が身につくでしょう。

私はここに大小とりまぜて計二五〇点になるように問題・課題を収めました。これをやり通して巻末の配点表で点数を数えると、自分の現在の日本語の技能はどのくらいか、およそ見当がつけられるでしょう。また、日本語とはどんな特質をもつ言語なのか、日本人の社会意識はどんな基本的構造をもつのかということを考えていく糸口もここで話ししてみます。

私は旧制高等学校の生徒の時、ドイツ語の組だったので、文章を書くには、いつも「クラール・ウント・ドイトリヒ Klar und Deutlich」（澄明で区別明瞭）という言葉を呪文のように唱えていました。この本でも、人の文章をどう読み取るかということと並んで、日本語を澄明に、区別明瞭に書くにはどうすればいいか、その入り口をお話ししました。

ひととおり読むだけでもこの本は日本語の理解と表現のために役に立つところがあると思います。ゆつくりと辛抱強く、練習問題に答え、また作業をしていくと、その人が本来もっている言語の能力がきつと引き出されてくる。誰かといっしょにこれをして答えをつきあわせ、違った考えがあることを知るのも面白いと思います。もちろん独りでもいい。これはまた、一つの知的な遊びにもなるでしょう。

目次

まえがき

I 単語に敏感になろう 1

II 文法なんか嫌い——役に立つか 45

III 二つの心得 89

IV 文章の骨格 111

V 敬語の基本 145

配点表 211

あとがき 215

I 単語に敏感になろう

意味の違い目を見る

日本語がよく読めるように、よく書けるようになりたいたとすれば、最初にどんなことに気持ちを向けるといいか。

文章は一つ一つの単語で成り立っています。文章はほぐしていくと、結局は単語に達します。単語は建築ならば煉瓦れんがに喩たとえられるでしょう。煉瓦はその一つ一つが同じ形に作られていて、適切に配置されます。煉瓦ならば形が均一ですが、文章を組み立てる煉瓦である単語は一つ一つ異なっていて、文章の中でお互いに微妙に応じあいます。だから、まず単語の形と意味に敏感になりました。

練習①

「思う」と「考える」という似た意味の言葉があります。「行くべきだと思う」「行

くべきだと考える」のように使います。しかし場合によっては、どちらを使ってもいいというわけにはいきません。例えば、

今夜のごはんの献立を――

という場合には、「献立を考える」が普通で、「献立を思う」とはいいません。これにならって、

a ――を思う（または、――に思う）

b ――を考える

と区別して使うのが普通なaとbとを、それぞれ三つずつ書いて下さい。

――問1

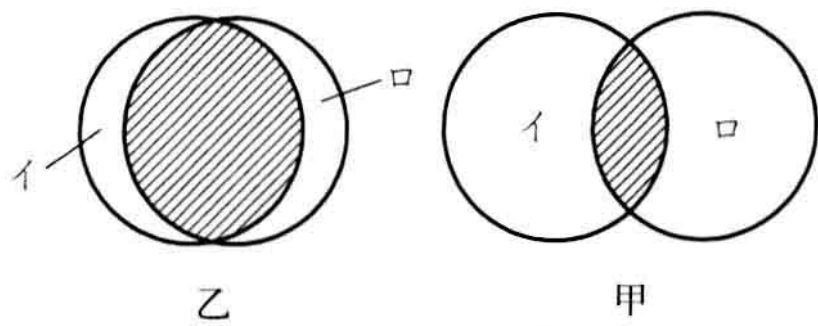
次に、「思う」と「考える」はどう違うのか、書いて下さい。

――問2

「考える」とは理性的な働きで、「思う」とは感情的なものだとみる人もあるでしょう。しかし「入学試験を受けようと思った」という場合には、感情的とはいえないでしょう。

aとbの答えの一例。

a 故郷を思う。はるかなベネチアの都を思う。不満に思う。



言葉の意味の重なり

b 問題を考える。万が一の場合を考える。段取りを考える。

この場合、どうして「思う」あるいは「考える」の片方しか使えないのか。上の甲乙の図を見て下さい。

まず、上の図のまん中の重なっている部分、これは二つの言葉の意味の重なるところ、二つの言葉のどちらを使ってもよいところでは、「こうしようと思った」「こうしようと考えた」などという場合は、「だいたいどちらを使ってもいい。しかし、「百万円も使ってしまった」と「百万円も費やしてしまった」とは重なってはいても、「使う」と「費やす」では重なりが小さく、図の甲に当たる。「思う」「考える」の場合には、重なりが大きく、図の乙に当たる。図のイ、ロという重ならない部分は小さい。しかしイとロとは交換するわけにいきません。このように

イとロとが、小さい場合と大きい場合があります。

これから、いくつかの問題を取り上げますが、乙の図のように単語によっては、重なっている部分が大きくて、イとロが小さいものもある。その微妙なところを、言葉のニュアンスといっています。言葉の使い方がいいとか、言葉が鋭く読めるとかいうことは、このイとロとを明

らかに意識して区別し、使い分けられるかどうかにかかっています。

では、「思う」と「考える」の違う部分は何なのかを見るために、もう一つ問題を出します。

練習②

次の言葉の意味の違いをそれぞれ書いて下さい。

「思いこむ」と「考えこむ」

— 問3

「思い出す」と「考え出す」

— 問4

「思いこむ」とは、一つの考えを心にもったときに、それ一つを固く信じて他の考えをもてないこと。「考えこむ」とは問題に関わって、あれこれとしきりに考えをめぐらして止まらないこと。

「思い出す」は、一つの記憶を心の中によみがえらせること。「考え出す」は、あれこれ工夫して新しい考えを生むことです。もともと「出す」には「始める」という意味もありますから、

「思い出す」「考え出す」は「(心配だと)思い始める」「(どっちがいいか)考え始める」という意味にもなります。

そこで、「思う」と「考える」の違いに戻りましょう。次の言葉の「思い」を「考え」に置き換えることができるかどうか。

思い知らせる

思いとどまる

思い浮かべる

思いおこす

この「思い」を「考え」に置き換えることはできません。なぜできないか。

「思い知らせる」とは、自分の心の中にある一つの気持、恨みとか悪い感情を相手に分からせることです。長い間、自分の心の中に抱いている恨みを相手に知らせるのが「思い知らせる」。

「思いとどまる」とは、自分の胸の中にあつて突つ走ろうとする一つのことを抑えること。

「思い浮かべる」「思いおこす」の「思い」も同じことです。

つまり「思い」とは、胸の中にある一つのことをいいます。これに対して「考える」とは、

あれかこれか、ああするか、こうするかと、いくつかの材料を心の中で比べたり、組み立てたりすることです。

つまり、「思う」とは、一つのイメージが心の中にできあがっていて、それ一つが変わらずにあること。胸の中の二つあるいは三つを比較して、これかあれか、こうしてああしてと選択し構成するのが「考える」。

この違いは昔からあったのです。「考える」という言葉を古くさかのぼると、罪人を刑罰に処するときに、「……に勘^{かん}ふ」と言いました。「考える」の一番古い例を『日本書紀』に求めると、一つは「刑罰を決めること」です。もとの形「かむがへる」の、「か」とは、事とか所とかいうこと、「むがへる」の古形は「むかへる」で、「向き合わせる」こと。犯罪者の実際にやった悪事が、刑罰の条文のどれに当たるかと事実と条文を突き合わせて決定すること、それが「かむがへる」でした。また、戸籍帳の記載と実際の田畑の配置を突き合わせて調べることが「校^{かむが}ふ」といいました。つまり「事柄を突き合わせてしらべる」のが「考える」の最古の使い方です。現在も、「企画を考える」とか「献立を考える」とか、あれこれ組み合わせるときに「考える」という。そこには「思う」は使いません。「明日の試験を思う」といったら、明日の試験のこと一つが心配で気にかかることになります。

古い文学の中に出てくる「思ふ」は、「胸の中に思っている」と置き換えるといい例が多い。言葉には出せずに、好きな人を恋する。それを「思ふ」という。胸の中には一人の人の姿しか見えない。それをじっと抱いている。だから「思ひ人」とは、それを告白できないで恋している相手をいいます。「思う」を「感情的だ」ととらえた人は、その点を強く感じたのです。「思う」は胸の中の一つのイメージをじっと大事にしていることです。だから、「試験を受けようと思う」というときには、そのこと一つを心の中で決めていることです。

それに対して、「考える」にはあれかこれかという比較の観念、あるいは組み立て、構成の気持が含まれている。そのことを書けば、合格です。

お茶を一杯

(外国語の話と聞いただけで、それはごめんだという方は、ここは飛ばしてさしつかえありません。先へお進み下さい)

デカルトの哲学の基本原則として有名な、「コギト・エルゴ・スム」(cogito ergo

sum)というラテン語の言葉があります。現在、英和辞典にも項目として立てられていて、昔ながらに「我思う、ゆえに我あり」と訳してある。coは「共に」の意、-gitoはagitare「動かす」から来た言葉で、合わせて「事物を頭の中で一つにまとめる」とされています。もしcogitoがその意味なら、それを「我思う」と訳するのは不的確で、むしろ「我考う」とあるべきでしょう。最近のデカルト研究書では、「私は考える」と訳しているものが多いようです。

ものをとらえる角度によって単語がかわる

練習③

a それはとてもうれしいことです

b それはとてもよろこばしいことです

「うれしい」も「よろこばしい」も同じ文脈で使えますが、「うれしい」は使えても「よろこばしい」というと変な場合があります。それを一例書いて下さい。——問5

次に、「うれしい」と「よろこばしい」とがどう違うか、書いて下さい。 — 問6

答えの一例。

○ わあ、うれしい。

× わあ、よろこばしい。

このように、「うれしい」は自分が喜ぶときに使う。「よろこばしい」は今では、文章語に近くて、自分だけの喜びに会話で使うとおかしい。

「よろこばしい」は明治・大正時代の小説家もそれほど使わなかった言葉です。夏日漱石の例を一つ出しましょう。

これが文明の趨勢すうせいですから、私などは大おおに喜ばしい現象だと、ひそかに慶賀の意を表して居るのです。

（『吾輩は猫である』）

「よろこばしい」とは、「慶賀の意を表する」気持ちになること。社会的におめでたい、よいと

きまつていることに対して、物を贈ったりして祝う気持になること。それに対して、「うれしい」は、個人的に希望や期待がかなったときに反射的に感じる内心の気持です。

「よろこばしい」は、「よろこぶ」からできた言葉です。昔は「よろこぶ」の意味が、現代とは少し違って、「慶祝する、お礼をいう」ことでした。ヨロコブルコト、ヨロコブルトキニなどと使いました。このブルは、今でもエラブルとか、知ツタカブルと使うブルと同じで、他人に対してその格好をすること。

ヨロコブはヨロコブルからできた言葉で、おめでたいことに対する気持を形にあらわし、人に表明することでした。官位が昇進したとか、立派な役目に付けてもらったとか、世間でおめでたいとすることが起きたときにお礼をいうのがヨロコブでした。その使い方が広がって、現在は、一般的に「大よろこびだった」などと他人の気持をいうのにも使いますが、ヨロコバシイとして使うときには、やはり古くからあるヨロコビ(慶祝、お礼)の意味が、どこかで生きています。

夏目漱石の作品から、もう一例。

彼女は喜ばしそうな調子で、自分に礼を述べた。

(『行人』)